

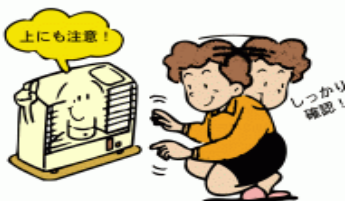
消防署からのお願い

回 覧

暖房機器を使用する季節は火災発生の危険が高くなる！！

令和5年中の住宅火災による死者は1023人で、タバコによる死者数が144人（14.1%）でも多く、次いでストーブによる死者数が95人（9.3%）となっています。また、ストーブの種類と死者数の内訳は、電気ストーブが47人、石油ストーブが41人、ガスストーブが4人、薪ストーブが3人となっています。

ストーブをつける前に
燃えやすい物がそばに
ないかの確認を！



電気ストーブ

電気ストーブは火気を使用せず一酸化炭素も出さないため、手軽で安全なイメージもあり、近年多く普及しています。しかし、そうした「油断」が生じやすいからこそ、火災につながりやすいことを覚えておきましょう。

石油ストーブ・石油ファンヒーター

石油ストーブ及び石油ファンヒーターの火災のうち、原因の判明したもののほとんどが「誤使用・不注意」によるものです。長年使い慣れていても、今一度、正しい使い方を確認しましょう。



電気ストーブ・石油ストーブ使用時の注意事項

- 使用する前に必ず清掃を行うようにしましょう。
本体に埃やゴミが溜まると、故障や異常燃焼の原因になります。
- 近くに燃えやすいもの（布団、洗濯物など）を置かないようにしましょう。また、カセットボンベやスプレー缶をストーブの近くで使うと爆発の危険性があるため、使用しないようにしましょう。
- ストーブをつけたまま外出や就寝をすることはやめましょう。
- 石油ストーブを使用する際は、必ず換気することを心がけましょう。
最低でも1時間に1回は換気をした方がよいとされています。
- 石油ストーブを使用する際は、古い燃料を使わず、新しい燃料を使いましょう。
- 給油する際は、ストーブを消火し、火の気がないところで油量計を見ながら行いましょう。また、カートリッジタンクへの給油後は、給油口蓋が確実に閉まっていること、漏れがないことを確認しましょう。
- OFF式石油ストーブを使用する際は、屋根からの落雪等で排気筒が埋まり、不完全燃焼を起こして一酸化炭素が室内に流入する可能性があります。排気筒周辺をこまめに確認しましょう。



◎ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構のホームページでは、石油ストーブの事故事例が紹介されていますので、参考にして下さい。 <https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2019fy/prs191128.html>

問い合わせ先

旭川市上川消防署 TEL 01658-2-1040

